

# 平成23年度後期 情報検定

<実施 平成23年12月11日（日）>

## 1 級

(説明時間 13 : 20 ~ 13 : 30)

(試験時間 13 : 30 ~ 14 : 30)

- ・試験問題は試験開始の合図があるまで開かないでください。
- ・解答用紙（マークシート）への必要事項の記入は、試験開始の合図と同時に行いますので、それまで伏せておいてください。
- ・試験開始の合図の後、次のページを開いてください。＜受験上の注意＞が記載されています。必ず目を通してから解答を始めてください。
- ・試験問題は、すべてマークシート方式です。正解と思われるものを1つ選び、解答欄の○をHBの黒鉛筆でぬりつぶしてください。2つ以上ぬりつぶすと、不正解になります。
- ・辞書、参考書類の使用および筆記用具の貸し借りは一切禁止です。
- ・電卓の使用が認められます。ただし、下記の機種については使用が認められません。

### <使用を認めない電卓>

1. 電池式（太陽電池を含む）以外の電卓
2. 文字表示領域が複数行ある電卓（計算状態表示の一行は含まない）
3. プログラムを組み込む機能がある電卓
4. 電卓が主たる機能ではないもの
  - \* パソコン（電子メール専用機等を含む）、携帯電話（PHS）、電子手帳、電子メモ、電子辞書、翻訳機能付き電卓、音声応答のある電卓、電卓付腕時計等
5. その他試験監督者が不適切と認めるもの

## ＜受験上の注意＞

1. この試験問題は18ページあります。ページ数を確認してください。  
乱丁等がある場合は、手をあげて試験監督者に合図してください。  
※問題を読みやすくするために空白ページを設けている場合があります。
2. 解答用紙（マークシート）に、受験者氏名・受験番号を記入し、受験番号下欄の数字をぬりつぶしてください。正しく記入されていない場合は、採点されませんので十分注意してください。
3. 試験問題についての質問には、一切答えられません。自分で判断して解答してください。
4. 試験中の筆記用具の貸し借りは一切禁止します。筆記用具が破損等により使用不能となった場合は、手をあげて試験監督者に合図してください。
5. 試験を開始してから30分以内は途中退出できません。30分経過後退出する場合は、もう一度、受験番号・マーク・氏名が記載されているか確認して退出してください。なお、試験終了5分前の合図以降は退出できません。試験問題は各自お持ち帰りください。
6. 2011年度の受験者から、試験後にお知らせする合否結果（合否通知）、および合格者に交付する「合格証・認定証」はすべて、Webページ（PC、モバイル）での認証によるデジタル「合否通知」、デジタル「合格証・認定証」に移行しました。
  - ①団体宛にはこれまでと同様に合否結果一覧ほか、試験結果資料一式を送付します。
  - ②合否等の結果についての電話・手紙等でのお問い合わせには、一切応じられませんので、ご了承ください。

問題を読みやすくするために、  
このページは空白にしてあります。

問題 1 次のQC7つ道具に関する設問に答えよ。

<設問 1 > 次のQC7つ道具の説明を読み、適切な字句を解答群から選べ。

- (1) 縦軸に値,横軸に項目をとり,値の大きい順に項目別の棒グラフを並べたものと,各項目の全体に対する割合を累積した値(累積値)で描いたグラフを合わせたもの。累積値によって項目の管理方法を分けることで,効率的な管理が行える。
- (2) 2つの項目の値を縦軸と横軸にとり,それぞれの値の交差する場所にプロットした図。項目間でどのような関係があるのかを把握することができる。
- (3) 原料別,時間帯別,年齢別など,得られたデータをある基準をもとに分類すること。分類されたデータをグラフ化などすることにより,差異を発見することが可能となる。
- (4) データの範囲を適当な区間に分割し,区間ごとの個数を集計した表をもとに棒グラフで表示したもの。グラフの中心位置や分布,ばらつきなどから,データを分析することができる。
- (5) 確認項目を簡単に検査できるように作成した一覧表。検査をする際に,漏れがないように実施したり,点検項目数を把握したりできる。
- (6) ある項目の推移を表した折れ線グラフ。上方の限界値(UCL)と下方の限界値(LCL)の間を不規則に推移している場合は問題がないと判断する。
- (7) 問題や結果と,それに影響を及ぼす事象の関係を矢線で図示したもの。図示することで問題や結果を導いた事象の関係を明らかにすることができ,改善すべき対象を特定することができる。

(1) ~ (7) の解答群

- |            |          |
|------------|----------|
| ア. チェックシート | イ. パレート図 |
| ウ. ヒストグラム  | エ. 管理図   |
| オ. 散布図     | カ. 層別    |
| キ. 特性要因図   | ク. 系統図法  |

<設問2> 設問1の(1)の図を使って行う分析方法を(8)の解答群から選べ。

(8)の解答群

ア. ABC分析

イ. SWOT分析

ウ. マトリクス分析

エ. 回帰分析

問題2 次のプリンタに関する設問に答えよ。

<設問1> 次のプリンタに関する記述中の□に入るべき適切な字句を解答群から選べ。

コンピュータで作成した情報を紙などに出力する場合、プリンタが使われる。

プリンタの駆動方式については、大きく2つに分けることができる。

一つは、印字するとき衝撃を利用するもので、□(1)式と呼ばれる。宅配便の伝票のように、数枚の用紙が重ねてあるものの一番上に印字するだけで、下にある用紙にも印字できるようなものの出力として用いられる。ここで用いる用紙の裏面には、圧力に反応する特殊な塗料やカーボンが塗ってあるため、一番上の用紙で受けた衝撃を下まで伝えて文字を出力することができる。

もう一つは、印字するとき機械的な衝撃を利用しないもので、□(2)式と呼ばれる。インクを噴出して印字する□(3)や、静電気で出力するイメージを感光ドラムに形成し、帯電した場所にトナーを付着させて印字する□(4)がある。

(1) , (2) の解答群

ア. インパクト

イ. ノンインパクト

ウ. インタレース

エ. ノンインタレース

(3) , (4) の解答群

ア. インクジェットプリンタ

イ. サーマルプリンタ

ウ. レーザプリンタ

エ. 昇華型プリンタ

<設問2> 次のカラー印刷に関する記述中の□に入るべき適切な字句を解答群から選べ。

デジタルカメラで撮影した写真を印刷する場合は、カラープリンタを使用する。

カラープリンタは、□(5)と呼ばれる方法で、色の三原色(シアン、マゼンタ、イエロー)を組合わせて様々な色を表現する。なお、シアン、マゼンタ、イエローの3つを同じ割合で混ぜ合わせていくと□(6)に近づく。

(5) の解答群

ア. 加法混色

イ. 減法混色

ウ. 条件等色

エ. 補色

(6) の解答群

ア. 白

イ. 黒

ウ. 緑

エ. 青

問題3 次のネットワークに関する設問に答えよ。

<設問1> 次のIPアドレスに関する記述中の□に入るべき適切な字句を解答群から選べ。

インターネットで情報をやり取りするには、ネットワーク機器にIPアドレスを割り当てる必要がある。IPアドレスの規格であるIPv4では、32ビットのアドレス空間を利用している。IPアドレスは、ネットワーク部とホスト部で構成し、それぞれのビット数の違いにより、クラスA、クラスB、クラスCなどが存在する。

IPアドレスのホスト部の値が2進数ですべて0の場合は□(1)であり、ホスト部の値が2進数ですべて1の場合は□(2)となるので、これら2つの値はネットワーク機器に設定するIPアドレスとして割り当てることができない。

クラスCを利用する場合は、ホスト部は□(3)ビットあるが、接続できるネットワーク機器は最大で□(4)台となる。

(1)、(2)の解答群

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| ア. MACアドレス      | イ. ネットワークアドレス  |
| ウ. ブロードキャストアドレス | エ. マルチキャストアドレス |
| オ. リンクローカルアドレス  | カ. ループバックアドレス  |

(3)の解答群

- |      |      |      |      |
|------|------|------|------|
| ア. 6 | イ. 7 | ウ. 8 | エ. 9 |
|------|------|------|------|

(4)の解答群

- |        |        |        |        |
|--------|--------|--------|--------|
| ア. 253 | イ. 254 | ウ. 255 | エ. 256 |
|--------|--------|--------|--------|

<設問2> 次のサブネットに関する記述中の□に入るべき適切な字句を解答群から選べ。

ある企業では、フロアごとに1つのネットワークアドレスを利用している。あるフロアに割当てたネットワークアドレスが、192.168.10.0であり、サブネットマスクが255.255.255.0であった。これをさらにサブネット化して3つのネットワークグループを作り、各ネットワークグループでは最大50台のネットワーク機器を接続したい場合、サブネットマスクを□(5)と設定すればよい。

(5)の解答群

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| ア. 255.255.255.64  | イ. 255.255.255.128 |
| ウ. 255.255.255.192 | エ. 255.255.255.224 |

<設問 3> 次の IPv6 に関する記述中の [ ] に入るべき適切な字句を解答群から選べ。

IPv4 における IP アドレスの枯渇問題から、IP アドレスのビット数を 128 ビットとする IPv6 が考えられた。IPv6 では、IPv4 のネットワーク部に相当するプレフィックス、ホスト部に相当するインタフェース ID で構成する。

プレフィックスのビット数は、IPv6 のアドレス表記の後にスラッシュで区切って表記する。例えば、プレフィックスのビット数が 64 ビットであれば、fe80::d0d:79bf:c40f:30fa/64 となる。

このような表記方法は、IPv4 でクラスの概念がない（クラスレス）ネットワークの表記でも使用され、 [ (6) ] と呼ばれる。

#### (6) の解答群

- |         |          |
|---------|----------|
| ア. CIDR | イ. IPsec |
| ウ. PLC  | エ. VoIP  |

<設問 4> 次のアドレス変換に関する記述中の [ ] に入るべき適切な字句を解答群から選べ。

通常、LAN 内で使用する IP アドレスは、 [ (7) ] と呼ばれるもので、インターネットに直接接続できないアドレスである。これに対し、インターネットに接続できる IP アドレスは [ (8) ] と呼ばれる。

インターネットの出入口となるルータなどのゲートウェイは、 [ (7) ] と [ (8) ] の間で変換をする必要がある。この機能の 1 つに [ (9) ] があり、 [ (7) ] と [ (8) ] を 1 対 1 に変換する。

また、複数の [ (7) ] を 1 つの [ (8) ] に対応させるには、ポート番号も含めて変換する。この機能を [ (10) ] と呼ぶ。

#### (7) , (8) の解答群

- |                   |                  |
|-------------------|------------------|
| ア. グローバル IP アドレス  | イ. パブリック IP アドレス |
| ウ. プライベート IP アドレス | エ. ローカル IP アドレス  |

#### (9) , (10) の解答群

- |         |         |
|---------|---------|
| ア. FTTH | イ. NAPT |
| ウ. NAT  | エ. PPP  |



問題4 次のパソコンの仕様の抜粋を読み、設問に答えよ。

[パソコンの仕様の抜粋]

プレインストール OS		Windows 7 Professional 32ビット
CPU		インテル Core i3 プロセッサ
	動作周波数	2.5GHz
	キャッシュメモリ	L2 : 256KB×2 L3 : 3MB
メインメモリ	標準/最大	2GB (2GB×1) / 4GB
	仕様	PC3-12800 (DDR3-1600) 対応 SDRAM
表示機能	ビデオ RAM	最大 785MB (メインメモリと共用)
	グラフィックアクセラレータ	インテル HD グラフィックス (CPU に内蔵)
補助記憶装置	ハードディスク	3.5 型 500GB (7,200rpm, Serial ATA)
	DVD スーパーマルチドライブ (2層書き込み)	12cm/8cm ディスク対応, Serial ATA 接続
通信機能	LAN	1000Base-T / 100Base-TX / 10Base-T

<設問1> 次の CPU の動作周波数に関する記述中の [ ] に入るべき適切な字句を解答群から選べ。

CPU の動作周波数が 2.5GHz であることから、1クロックあたり [ (1) ] 秒かかることがわかる。この CPU では、平均すると、機械語の 1 命令あたり 2.5クロックで動作するとすれば、1秒間で [ (2) ] 命令実行できる。以上のことから、CPU の動作周波数に比例して、 [ (3) ] が上がる。

(1) の解答群

- ア. 200 ピコ
- イ. 200 マイクロ
- ウ. 400 ピコ
- エ. 400 マイクロ

(2) の解答群

- ア. 10,000
- イ. 20,000
- ウ. 5,000,000
- エ. 1,000,000,000

(3) の解答群

- ア. インターネットのアクセス速度
- イ. ハードディスクのアクセス速度
- ウ. USB 機器のアクセス速度
- エ. 命令の実行速度

<設問2> 次のキャッシュメモリに関する記述中の□に入るべき適切な字句を解答群から選べ。

コンピュータの動作速度を向上させるため、CPU とメインメモリの速度差を埋める目的で使用するのがキャッシュメモリである。キャッシュメモリは、高速で動作する□(4)で構成する。

この CPU では、キャッシュメモリが 3 種類用意されている。CPU が必要とするデータが 1 次キャッシュになれば 2 次キャッシュを調べ、2 次キャッシュにもなければ 3 次キャッシュを調べる。3 次キャッシュにもなければ、メインメモリからデータを取り出す。各キャッシュメモリのアクセス速度を比較すると、□(5)の順に遅くなる。キャッシュメモリの容量も、コンピュータの動作速度に影響してくる。

#### (4) の解答群

- ア. DRAM
- イ. RDRAM
- ウ. SRAM
- エ. VRAM

#### (5) の解答群

- ア. 1 次キャッシュ, 2 次キャッシュ, 3 次キャッシュ
- イ. 2 次キャッシュ, 3 次キャッシュ, 1 次キャッシュ
- ウ. 2 次キャッシュ, 1 次キャッシュ, 3 次キャッシュ
- エ. 3 次キャッシュ, 2 次キャッシュ, 1 次キャッシュ

<設問3> 次のメインメモリに関する記述中の□に入るべき適切な字句を解答群から選べ。

メインメモリの規格に「PC3-12800 (DDR3-1600)」と書いてある。

「PC3-12800」とは理論的な最大転送速度を表すモジュール規格で、この場合は、1 秒間に 12.8GB 転送できることを示す。

「DDR3-1600」とは動作周波数をもとにした転送レートを表すチップ規格で、DDR3 は 1 クロックで 2 回のデータアクセスが可能なことから、動作周波数は最大 800MHz である。

なお、モジュール規格が PC3-6400、動作周波数が最大 400MHz であれば、チップ規格は DDR3-□(6)である。

#### (6) の解答群

- ア. 400
- イ. 800
- ウ. 1600
- エ. 6400

<設問4> 次のハードディスクに関する記述中の  に入るべき適切な字句を解答群から選べ。

ハードディスクからのデータアクセスに必要な時間は、シーク時間+サーチ時間+データ転送時間で、おおよその計算ができる。

シーク時間とは、アクセスアームが目的のトラックに移動するまでの時間であり、アクセスするタイミングにより移動量が異なるため、平均値を利用する。

サーチ時間とは、目的のトラックまで移動した後、データの先頭がアクセスヘッドに到達するまでの待ち時間である。最少0、最大1回転の時間が必要であり、平均値として、1/2回転する時間を使用する。このパソコンの場合、7200rpmなので、平均サーチ時間は約  (7)  ミリ秒になる。

データ転送時間は、転送するデータ量をデータ転送速度で割って求める。データ転送速度は、1秒間に転送できるデータ量とすると、理論的には、1秒間にアクセスヘッドで読込むことができるデータ量として求めることができる。よって、データ転送速度は、ハードディスクの  (8)  といえる。

**(7) の解答群**

ア. 4

イ. 6

ウ. 8

エ. 12

**(8) の解答群**

ア. 回転数が速くなれば、遅くなる

イ. 回転数が速くなれば、速くなる

ウ. 回転数が速くなっても、変わらない

エ. トラックの容量が多くなると、遅くなる

問題5 次のアクセス制御に関する記述を読み、設問に答えよ。

イントラネット内にあるサーバのディレクトリには、アクセス制御がかけられている。ここでのアクセス制御は、アクセスしようとするユーザの所属するグループで判断され、ディレクトリごとにアクセス可またはアクセス不可を指定する。許可されたディレクトリに対しては、ファイルの読取り、書込み、削除が可能であり、許可されていないディレクトリに対しては一切のアクセスができない。なお、設定したディレクトリに含まれるサブディレクトリには、特別にアクセス制御の設定がされない限り、同じアクセス権が継承される。

ディレクトリに対するアクセス制御は、サーバ内の決められたディレクトリに設定ファイルを置き、そのファイルを参照することで行われる。このファイルは、次のようなタグ形式で記述されている。

```
<Directory ディレクトリのパス>
  <Default アクセス権の既定値 />          ... ①
  <許可 グループ名 1, グループ名 2, .../>   ... ②
  <不可 グループ名 1, グループ名 2, .../>   ... ③
</Directory>
```

- ① ... 「許可」または「不可」と記述
- ② ... すべてのグループを対象とする場合は、このタグを記述しない
- ③ ... すべてのグループを対象とする場合は、このタグを記述しない

例えば、「d:¥業務¥」ディレクトリに対して、グループ「group1」のアクセスをアクセス不可とし、その他のグループに対してはアクセスを許可する場合は、次のような記述になる。

```
<Directory d:¥業務¥>
  <Default 許可 />
  <不可 group1 />
</Directory>
```

<設問 1 > 次の表のようにアクセス制御をする場合、設定ファイルの記述中の  
に入るべき適切な字句を解答群から選べ。なお、この表にあるグループ以外にグループは存在しない。

表 アクセス制御

グループ ディレクトリ	営業 1 G	営業 2 G	総務 G
d:¥業務¥顧客¥	○	○	×
d:¥業務¥商品¥	○	○	○
d:¥業務¥社員¥	×	×	○
d:¥業務¥計画¥	×	○	×

○ : アクセス許可    × : アクセス不可

```

<Directory d:¥業務¥顧客¥>
 (1)
</Directory>
<Directory d:¥業務¥商品¥>
 (2)
</Directory>
<Directory d:¥業務¥社員¥>
 (3)
</Directory>
<Directory d:¥業務¥計画¥>
 (4)
</Directory>

```

(1) ~ (4) の解答群

- |                                       |                                       |
|---------------------------------------|---------------------------------------|
| ア.    <Default 許可 />                  | イ.    <Default 不可 />                  |
| ウ.    <Default 許可 /><br><不可 営業 1 G /> | エ.    <Default 許可 /><br><不可 営業 2 G /> |
| オ.    <Default 許可 /><br><不可 総務 G />   | カ.    <Default 不可 /><br><許可 総務 G />   |
| キ.    <Default 不可 /><br><許可 営業 1 G /> | ク.    <Default 不可 /><br><許可 営業 2 G /> |

<設問 2> 次のアクセス権設定に関する記述中の  に入るべき適切な字句を解答群から選べ。

グループが多く存在する場合、ディレクトリのアクセス権管理を安全に運用するには、Default タグを不可に設定し、許可タグをグループごとに設定する。

例えば、設問 1 の場合、 (1) を  (5) に、 (2) を  (6) に変更すればよい。

**(5) , (6) の解答群**

- ア. <Default 不可 />  
<許可 営業 1 G, 営業 2 G />
- イ. <Default 不可 />  
<許可 営業 1 G, 営業 2 G, 総務 G />
- ウ. <Default 不可 />  
<許可 総務 G />
- エ. <Default 不可 />  
<許可 営業 1 G, 総務 G />

問題 6 次の表計算ソフトの利用に関する記述を読んで設問に答えよ。

関数、式の仕様は次のとおりである。

COUNTIF 関数

範囲の中から条件に一致するセルの個数を返す。

書式：COUNTIF (範囲, 条件)

IF 関数

条件が真の時に真の場合、偽の時に偽の場合の計算結果や値を返す。

書式：IF(条件式, 真の場合, 偽の場合)

IFERROR 関数

式を評価した結果、何らかのエラーが発生した場合に、エラーの場合の処理を行う。  
エラーがなければ、式の値を表示する。

書式：IFERROR (式, エラーの場合の処理)

ROUNDDOWN 関数

数値を指定された桁数で切り捨てた結果を返す。

- ・ 桁数に正の数を指定すると、小数点以下の指定した桁で切り捨てられる。
- ・ 桁数に 0 を指定すると、小数部分が切り捨てられる。
- ・ 桁数に負の数を指定すると、整数部分の指定した位置で切り捨てられる。

書式：ROUNDDOWN (数値, 桁数)

例：ROUNDDOWN(123, -2)の場合、100 を返す。

SUMIF 関数

範囲の中から検索条件に一致する行の合計値を、合計範囲から計算して返す。

書式：SUMIF (範囲, 検索条件, 合計範囲)

VLOOKUP 関数

範囲の中から検索値を 1 列目に含む行を検索し、一致した行の指定した列の値を返す。一致するものがない場合はエラーを返す。

書式：VLOOKUP(検索値, 範囲, 列番号)

式

=に続けて計算式や関数などを入力する。

セル番地の参照

セル番地に\$を付けることで、絶対番地（絶対参照）を表す。

J パックツアー株式会社では、パッケージツアーの申し込みを表計算ソフトを使用して管理している。パッケージツアーの内容は、次のとおりである。

- ・パッケージツアー名 「ワンダーランド体験ツアー」
- ・旅行出発日 2012年3月1日～2012年3月31日の毎日
- ・ツアー日程 4泊5日
- ・基本料金 168,000円
- ・オプション (料金は現地価格)

区分	オプション名	料金
A	ピーターとラフティング	\$120
B	シンディーと買い物ツアー	\$75
C	ウィンカーベルディナーショー	\$210

注：上記の中から1つ選べる。選択しないことも可能。

- ・申し込み単位 個人またはグループ  
グループは、グループ全員が同一内容(全員が同じ出発日で同じオプションを選択)のツアーを申し込むものとする。
- ・申し込み期間 2011年10月1日～2011年12月31日
- ・特典  
その1：会員は基本料金とオプション料金の合計金額の10%を値引きする。また、グループ内に会員がいる場合は、グループ全員に対して基本料金とオプション料金の合計金額の10%を値引きする。なお、値引き額の1円未満は切り捨てる。  
その2：グループ内に会員がいない場合でも、3人以上のグループの場合には、グループ全員に対して、基本料金とオプション料金の合計金額の5%を値引きする。なお、値引き額の1円未満は切り捨てる。
- ・ツアー代金  
1人分のツアー代金は、基本料金と通貨換算レートで円換算したオプション料金の合計金額から特典による値引き額を引き、さらに1,000円未満を切り捨てた金額である。

以上の内容を表計算ソフトで処理する。表計算ソフトでは、以下のように対処している。

- ・グループ内に会員がいる場合は1、いない場合は0を会員区分に入力する
- ・通貨換算レートは\$1=95円とする
- ・総額はグループ全員のツアー代金の合計とする



<設問 1> 次の流れ図は、1 人分のツアー代金およびグループの総額を求めるものである。流れ図中の  に入るべき適切な式と X および Y の判断の組み合わせを解答群から選べ。

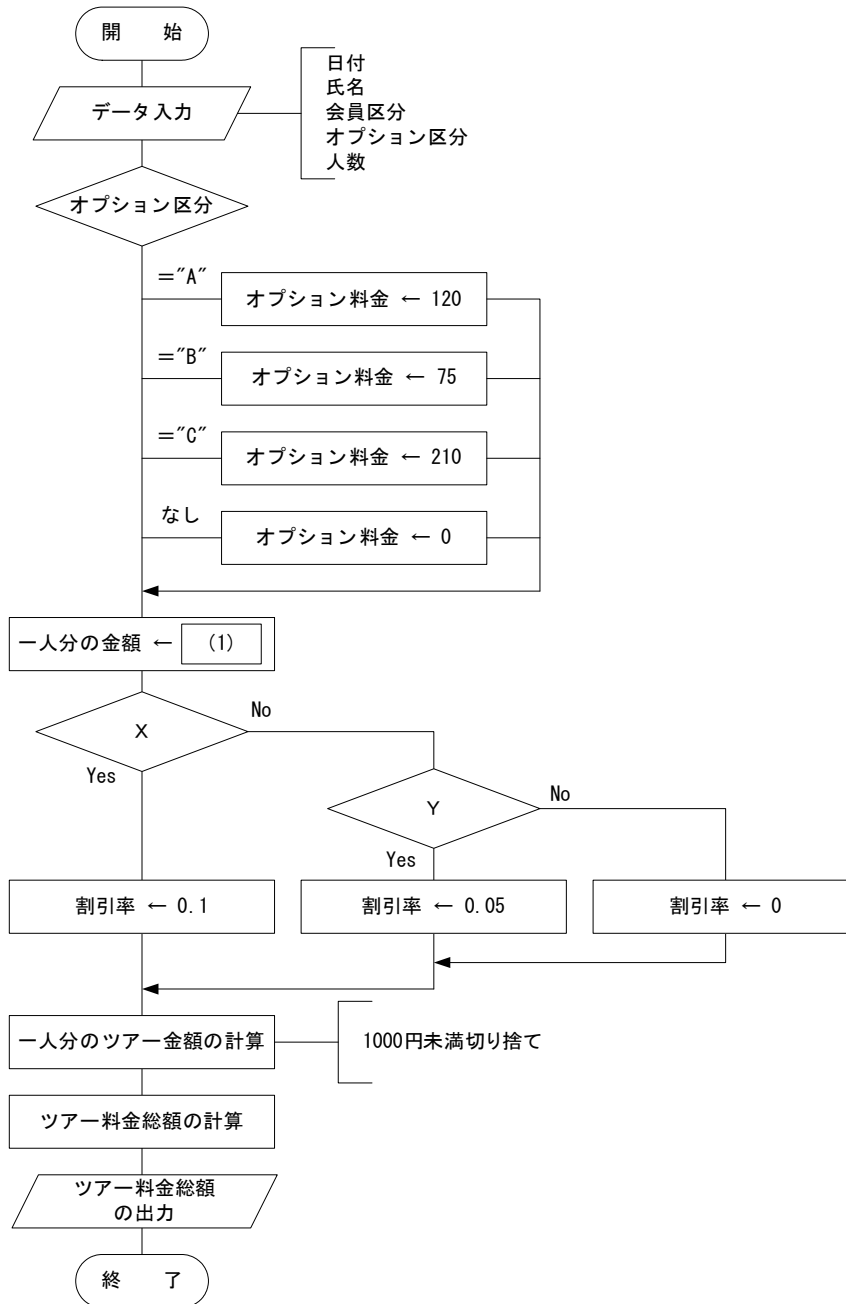


図 1 ツアー料金計算の流れ図

(1) の解答群

- ア.  $168000 + \text{オプション料金} \times \text{通貨換算レート}$
- イ.  $(168000 + \text{オプション料金}) \times \text{通貨換算レート}$
- ウ.  $168000 + \text{オプション料金} \times \text{通貨換算レート} \times 100$
- エ.  $(168000 + \text{オプション料金}) \times (\text{通貨換算レート} \times 1.05)$

(2) の解答群

	X	Y
ア	会員区分 = 0	人数 $\geq$ 3
イ	会員区分 = 0	人数 $\leq$ 3
ウ	会員区分 = 1	人数 $\geq$ 3
エ	会員区分 = 1	人数 $\leq$ 3

<設問 2> 次のツアー申込み表の作成に関する問いに答えよ。

J パックツアー株式会社では、図 2 のツアー申込み表を作って管理している。

▲	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1		エバーランド体験ツアー					申込み表					
2												
3		出発年月	2012	年			基本料金		168,000	円		
4			3	月			通貨変換レート		95	円		
5												
6		出発日	氏名	会員区分		オプション		人数	1人分			総額
7						区分	料金		合計金額	値引き額	ツアー代金	
8		3	田中 努	1 会員		A	120	3	179,400	17,940	161,000	483,000
9		3	南条 信人	0 非会員				4	168,000	8,400	159,000	636,000
10		4	天城 真子	0 非会員		C	210	2	187,950	0	187,000	374,000
11		5	大島 直子	1 会員		B	75	5	175,125	17,512	157,000	785,000
12		5	鈴木 拓斗	0 非会員		A	120	2	179,400	0	179,000	358,000
13												
14												
15												
16												
17												
18												
19						オプション選択者						
20						区分	料金	選択者				
21						A	120	5				
22						B	75	5				
23						C	210	2				

図 2 ツアー申込み表

申込者の情報は、この表の 8 行～17 行の、網掛けになっていない箇所に入力するようになる。

(3) セル E8 に入力する式を解答群から選べ。E 列は、D 列に入力した値をもとに、会員か非会員かを表示するための式を入力する。なお、B 列に何も入力していない場合は E 列に何も表示しないようにし、ここで入力した式はセル E9～E17 までコピーする。

(3) の解答群

- ア. = IF(B8="", "", IF(D8=0, "会員", "非会員"))
- イ. = IF(B8="", "", IF(D8=1, "会員", "非会員"))
- ウ. = IF(B8="", "", IF(D8="", "会員", "非会員"))
- エ. = IF(B8="", "", IF(D8="", "非会員", "会員"))

(4) セル G8 に入力する式を解答群から選べ。G 列は、F 列に入力された区分をもとにオプション料金を表示するための式を入力する。なお、区分に“A”, “B”, “C”以外の値が入力されている場合は G 列に何も表示しないようにし、ここで入力した式はセル G9~G17 までコピーする。

**(4) の解答群**

ア. = IF(F8<75, "", IF(F8>210, "", VLOOKUP(F8, F\$20:G\$23, 2)))  
イ. = IF(F8="A", 75, IF(F8="B", 120, IF(F8="C", 210, "")))  
ウ. = IFERROR(VLOOKUP(F8, F\$20:G\$23, 1), "区分エラー")  
エ. = IFERROR(VLOOKUP(F8, F\$20:G\$23, 2), "区分エラー")

(5) セル I8 に入力する式を解答群から選べ。I 列は、1 人分の基本料金とオプション料金を合わせた合計金額を計算する式を入力する。なお、B 列に何も入力されていない場合は I 列に何も表示しないようにし、ここで入力した式はセル I9~I17 にコピーする。

**(5) の解答群**

ア. = IF(B8="", "", IF(F8="", I\$3, I\$3 + G8 \* I\$4))  
イ. = IF(B8="", "", IF(F8="", I\$3, I\$3 + G\$8 \* I\$4))  
ウ. = IF(B8="", "", IF(F8="", I3, I3 + G8 \* I4))  
エ. = IF(B8="", "", IF(F8="", I3, I3 + \$G8 \* I4))

(6) セル J8 に入力する式を解答群から選べ。J 列は、値引きの条件から、1 人分の値引き額を計算する式を入力する。なお、I 列に何も表示されていない場合は J 列に何も表示しないようにし、ここで入力した式はセル J9~J17 にコピーする。

**(6) の解答群**

ア. = IF(I8="", "", ROUNDDOWN(IF(D8=0, 0.1, IF(H8>=3, 0.05, 0)) \* I8, 0))  
イ. = IF(I8="", "", ROUNDDOWN(IF(D8=0, 0.1, IF(H8>3, 0.05, 0)) \* I8, 0))  
ウ. = IF(I8="", "", ROUNDDOWN(IF(D8=1, 0.1, IF(H8>=3, 0.05, 0)) \* I8, 0))  
エ. = IF(I8="", "", ROUNDDOWN(IF(D8=1, 0.1, IF(H8>3, 0.05, 0)) \* I8, 0))

(7) セル K8 に入力する式を解答群から選べ。K 列は、1 人分のツアー金額を計算する式を入力する。ツアー金額は、合計金額から値引き額を引き、1000 円未満を切り捨てることで計算する。なお、I 列に何も表示されていない場合は K 列に何も表示しないようにし、ここで入力した式はセル K9～K17 にコピーする。

**(7) の解答群**

- ア. = IF(I8="", "", ROUNDDOWN(I8, -3))
- イ. = IF(I8="", "", ROUNDDOWN(J8, -3))
- ウ. = IF(I8="", "", ROUNDDOWN(I8 - J8, -3))
- エ. = IF(I8="", "", ROUNDDOWN(J8 - I8, -3))

(8) セル H21 に入力する式を解答群から選べ。セル H21～H23 は、オプションツアーを申し込んだ人数を集計する式を入力する。なお、ここで入力した式はセル H22～H23 にコピーする。

**(8) の解答群**

- ア. = COUNTIF(\$F8:\$F17, F21)
- イ. = COUNTIF(F\$8:F\$17, F21)
- ウ. = SUMIF(\$F8:\$F17, F21, \$H8:\$H17)
- エ. = SUMIF(F\$8:F\$17, F21, H\$8:H\$17)

<メモ欄>

<メモ欄>

<メモ欄>

